

広瀬川漁協の増殖義務に係る現地調査結果等について

日 時：令和6年11月13日（水） 13:00～15:15

場 所：広瀬川漁協，米ノ津川

相手方：広瀬川漁協 内木場代表理事組合長，中川理事，松田事務員

対 応：水産振興課 村田漁業調整係長，山神水産技師

（立会い）北薩地域振興局 徳永参事，中野技術主幹

○ 放流種苗の採捕について

- ・採捕場所は米ノ津川の春日橋付近で，ある程度の流れがある場所で行う。
- ・プラスチック製のセルビンを用いて，餌（米ぬか，味噌等）に誘引された魚を採捕。

【現地調査時の採捕結果】

No	設置時間	オイカワの採捕量	備考
漁 具 ①	20 分	250 g	カワムツを混獲
漁 具 ②	40 分	500 g	混 獲 な し

- ・増殖目標分（5kg）のオイカワは1日で採捕可能。（5cm～10cm）
- ・採捕したオイカワの計量は行わず，経験則から数量を算出していた。

○ 放流について

- ・放流場所は米ノ津川の春日橋付近で，複数設置したセルビンのうち，オイカワの採捕量が少なかった場所を中心に，同日中に放流していた。

※ 採捕地点から放流地点までは，オイカワが自力で移動できる範囲内

○ 自河川での採捕・採捕場所周辺への放流に至った経緯

- ・漁業権種はハヤ（オイカワ，カワムツなど小型のコイ科魚類）であり，オイカワだけでなく，ハヤの放流も義務放流になると認識していた。
- ・H26年からH28年は野田川で採捕し，米ノ津川に放流していたが，野田川で採捕されるのはカワムツが主体であることが判明した。
- ・その後，オイカワ種苗の購入先を探したが見つからず，H29年以降は自河川採捕・放流となっている。
- ・また，放流場所も採捕場所周辺で密度の薄いエリアへの放流を行っていた。

○ その他

- ・今回の疑義に際し，放流方法を改善すべきという意見があったことから，令和6年9月の理事会で代替方法を検討した。
- ・野田川や川内川上流でのオイカワ採捕を検討したが，「生息密度が低い」との意見があり，令和6年は甲突川で採捕を行い放流済み（計量も実施）。